

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300061		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム湯田あいおい苑		
所在地	山口市下市町2-1		
自己評価作成日	令和5年9月18日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湯田温泉街にある小さな施設ですが、目の前で調理され今日のご飯はなんだろうかと匂いを嗅ぎながら待つ・・・そんな家庭的な雰囲気のある施設です。それぞれのお部屋には馴染みのある家具を配置し、ご家族の写真や手作りの作品を飾り個性のある部屋づくりをしていただいています。また、近くには公園がありますので気候の良い日はお散歩することもできます。ご家族様へは面会やお電話、毎月のお便りで日頃の状況をお伝えし情報共有に努め、共にご利用者様を支えていける関係づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年から新体制となった事業所における最近の取組みとして職員を育てる取り組みがある。目指すべき介護の方向性を共有するため、管理者が率先するケア実践を通して人材育成に努めている。従来、月1回の職員会議内で勉強会を行っていたが、現在は業務後夜間に近隣会館で開催し、研修時間を確保して集中できる環境を整えている。例えば、拘束事例に至る前の不適切なケアやその前の日頃の対応・接遇等を振り返ることで意識付けを図っている。又、事業所開設から老朽化が進む就業環境の整備として職員の個人ロッカーの設置も行った。更に食事を楽しむことのできる支援では毎日の献立は栄養士資格を有する職員による三食手作りで、週に一度は職員と利用者が共に三食を作っている。食が楽しみとなる様、ウッドデッキで焼肉・正月に寿司の出前、全員が同じ柄の皿にならない様、視覚的な工夫もしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのままで変更しないでください】

自己	外部	項 目 (海)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の会議や委員会によるアンケート勉強会を実施し、目標に向かい実践している。理念をもとにユニット目標を立て、職員同士目標に向かい実践している。	事業所開設に伴い策定した理念・基本方針を掲示してケア実践上の原点としている。毎月の職員会議・委員会アンケート等の中で実践事例を通して理念の達成度を検証し、管理者は気づきを促している。又、年度毎に理念に沿った事業所目標とユニット目標を策定し、年度末に検証している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のためボランティアの受け入れなどや日常的な交流は控えているが、散歩での挨拶や回覧を回す、地域清掃の参加は行っている。	日頃から散歩で地域住民と挨拶を交わしたり、自治会に加入し、周辺清掃・回覧板等の地域活動に協力している。近隣保育園に夏祭りの灯籠を提供したり、花見ドライブ等で地域に出ている。又、家族の面会、近隣集会所で開催される運営推進会議で地域情報を得る等、相互交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染防止のため交流は控えている。運営推進会議を通して現状報告を行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行い改善に向け努力しているが、全職員が十分に評価を活用しているとは言えない。	自己評価は管理者が職員会議で評価の意義を説明し、全職員が自己評価欄に記入したものを管理者・ユニットリーダーが集約している。職員は評価を通して日頃の実践の課題を把握し、外部評価結果に基づいた目標に対して事業所として達成できるよう具体的な改善に努めている。	職員は自己評価欄の記入を通して、日頃の実践の課題の把握に努めているが、全職員が十分に理解・把握しているとは言えない。地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の活動目標や関連項目について職員が更に理解・共有できるよう、具体的な取り組みを期待したい。
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見をサービス向上に生かすよう努力している。	会議は隔月に開催し、今年度の直近3回は利用者家族・民生委員・交番所長・保育所職員・市介護保険課職員等との対面会議となっている。ヒヤリハット・事故等、事業所の現況・行事報告を参加者の意見交換と共に行い、参加者から事故防止のため防犯カメラ設置等、環境整備の助言を得ている。	会議には家族・市介護保険課職員・交番所長等、多様な職種の参加を得ているが、コロナ禍であり家族の参加は少ない。不参加家族との事業所運営に関する情報共有が不十分である。今後は不参加家族との情報共有・交換の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を期待したい。

自己	外部	項 目 (海)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、電話やメールおよび書類提出時に窓口で相談するようにしている。	市担当課職員は定期的に運営推進会議に参加しており、事業所の運営情報を共有している。会議の開催報告書は市担当課に送付又は持参し、担当課とは日頃から介護保険制度等に関する相談や事故報告書等の提出、行政主催の集団指導等で情報共有を図り、関係構築に努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会をととして身体拘束とならないよう勉強会を行い理解するよう努めている。	毎月の拘束廃止委員会や年2回の研修会等を通して職員は拘束をしない必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ね、カンファレンス等で事例検証している。職員配置にもよるが、基本的に日中は玄関を施錠せず、見守りで対応している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることがないように、研修への参加および勉強会を実施し防止に務めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援できるよう努力している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を丁寧に説明し理解を得るよう努めている。疑問等あればその都度説明を行うようにしている。		

自己	外部	項 目 (海)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	迅速に対応し、運営に反映できるよう努めて いる。	家族とは面会・介護計画更新・運営推進会議 参加時・事業所便り等で要望を把握する様に 努めており、その経緯は介護記録・経過記録 にて職員間で共有している。敬老会の記念 品として希望する物を聞き、敬老の趣旨がわ かるよう「のし」や家族からの祝いの言葉を添 え、贈呈した例がある。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課による面談等行われてい る。	毎月の事業所会議、各種委員会、カンファレ ンス、毎日の申し送りや半期毎又は随時の 個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方 法・業務上の提案に対する支援体制を採って いる。職員の提案により、職場環境の改善と してロッカーの交換や排便確認のため、職員 間で統一認識できるよう排便スケールを取り 入れている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備が行われるように なっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	施設内外の研修に参加し易い環境となってい る。	事業所は年間計画に基づき、各種委員会等 の主催による内部研修を毎月実施し、外部 研修案内の中から各自の力量に応じた階層 的な研修も提案している。外部研修後に参加 者が伝達講習を行い、復命書も回覧して情 報共有に努めている。新入職員にはOJT(職 場内訓練)による支援にも取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	研修へ参加することで、同業者との交流の 機会があり意見交換できている。また、自己 研鑽へ向けた取り組みがある。		

自己	外部	項 目（ 海 ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様と話し合い、不安や要望を傾聴しながら信頼関係作りに努めている。カンファレンスを実施しその方が安心して生活できるよう環境づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当を通してコミュニケーションを図り信頼関係を築くよう努め、意見や要望を聞くようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接をさせていただき、ご本人様およびご家族様の要望を確認し、ご本人様の不安が解消できるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできることできないことを見極め、一緒に行うようにしている。 職員や他ご利用者様との共同生活が楽しみであるものになるよう一緒に考えている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防のため一時面会をお断りしていた時期もあった。 情報を共有し協力関係を築くよう努力した。		

自己	外部	項 目 (海)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止のため、馴染みのある方との面会 はできていないが、電話の取次ぎは おこなっている。	現在は感染対策を施した上で玄関内外での 面会を可能としている。「地域との絆」「気軽 に訪問できる事業所作り」を大事にしてお り、電話・手紙のやり取り、受診、ドライブ途中 の自宅巡り等への外出を通して、馴染みの場 所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽し める様に支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	同じテーブルで共同して洗濯物をたたむ等 関わり合える支援を行っている。また、レク リエーションやお茶の時間をとおしてコミュニ ケーションが図れる場面をつくるようにして いる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は接点が無くなるためできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人様の希望を傾聴することで把握に努 め、カンファレンス・ユニット会議で話し合い を実施している。	職員は利用者とゆっくり話す中で思いを汲み 取り、介護記録・カンファレンス・基本情報に 反映する等、思いの共有に努めている。又、 排泄トラブル・不穏等、介入が必要な状況の 背後にある利用者の想いを探り、状況に適 合する対応策を家族と相談して本人本位に 対応している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご家族様や入居前に利用していたサービス 担当者より情報収集に努め、把握するよう にしている。		

自己	外部	項 目 (海)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での健康管理を行い、カンファレンス、日常の記録を活用し情報の共有に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで意見を出し合い課題・ケアについて検討・改善を行い、ご本人様の自立支援に向けたお手伝いができるよう努めている。	本人・家族、関係職種の意見を反映した原案を担当者会議で検討し本案としている。計画作成担当者が3か月を基本にモニタリングをし、計画を見直している。馴染みのある事が不安なく継続できる様支援している。ハーモニカの好きな利用者が本人が吹きたい時に皆の前で披露した例がある。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践の結果、気づき等を記録するようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況にあったものがなければ手作りするなど、創意工夫をし安心して過ごせるよう努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により十分とは言えないが、活用できるものは使っていけるよう努めている。		

自己	外部	項目（海）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一度の往診や急変時など迅速に対応できるよう日頃から連携を図るよう努めている。 体調不良等あれば適宜受診の支援を行っている。	利用開始前の主治医の受診継続も可能だが殆どの利用者は協力医を主治医とし、協力医から定期的な個別の訪問診療と月1回の総合診察、歯科医は月1回の訪問診療となっている。他科受診は事業所が協力し、訪問看護から週一回の健康管理もあり、適切な医療を受けられる体制を築いている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換を行い、医師との窓口でもあるのでその都度対応できるよう努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	それぞれの医療機関に設置してある医療連携室や病棟看護師をとおして情報交換を行うよう努め、退院時の受け入れができる努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様が状況を受け入れ、お互いに共同してご本人様を見守れるよう、日頃からご家族様・ご本人様の要望を聞き、尊厳ある人生が全うできるようお手伝いしていきたい。	要望があれば看取りを行なう方針である。利用開始時に「重度化した場合における対応の指針」を説明し、了承を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い、指針に基づき医療機関又は施設への移行を含め、適切な支援を行う方針である。昨年末に2名の看取り例がある。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的な講習や内部研修、勉強会により対応等の指導を受けている。	事故防止の実践力を高めるため、必要時に事故報告書等の作成・回覧、安全対策委員会・職員会議での検証を通して情報共有に努め、内容等も運営推進会議で公表している。職員は適宜、訪問看護師による指導や市主催の月1回の救命講習会を個別に受講し、実践力の習得に努めている。	

自己	外部	項目（海）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の他、情報収集、避難経路、持ち出し物品、協力体制等確認するため机上訓練を行っている。	夜間想定、利用者参加を含め、年2回の火災訓練と年4回の水害訓練を実施している。有事の際は自治会長・交番所長と口頭での協力合意がある。有事の際の第一通報先は法人・自治会長となっており、三日分の備蓄整備の他、BCP(業務継続計画)策定も完了し、机上訓練も実施している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の誇りやプライバシー、人格を尊重しながら対応を心掛けている。不適切なケアとならないよう声の掛け方や対応について勉強会を行っている。	職員は研修で幅広い知識習得と資質向上を図り、虐待防止委員会による「虐待の芽チェックリスト」等により日頃の言動を振り返り自己覚知を図っている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応にはその場で気づきを促し職員間で話しやすい雰囲気作りに努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるよう対応したり、思いや希望を伝えることが出来るような雰囲気づくりに配慮している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ禍により外出の支援が減ってしまったが、ひとり一人のペースに合わせた支援ができるよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じご本人様が望む衣類の選択等一緒に行い自己決定できるよう支援している。 行事によっては化粧をしていただくなど、その方の希望を聞きながら行っている。		

自己	外部	項 目 (海)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時には野菜の皮をむき、鍋をかき混ぜワイワイと楽しみながら一緒に食事を準備している。 食後の後片付けなどできる方にはお手伝いをお願いしている。	毎日の献立は季節や食材を勘案し栄養士資格を有する職員による三食手作りである。週に一度は職員と利用者が共に三食を作っている。又、食が楽しみとなる様、ウッドデッキで焼肉パーティーや正月に寿司の出前を取ったり、全員が同じ柄の皿にならない様、視覚的な工夫もしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	皆さんほぼ毎食全量摂取されている。 家庭的な料理で楽しんで食事できるメニューとなっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ職員が介助しながら口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し職員間で共有している。 定期的なトイレ誘導と、言葉にできない方についてはご本人様が示す排泄のサインを見逃さないようにし、トイレへ誘導している。	排泄管理表でパターンを把握し、トイレ誘導を基本としている。体調に即したパンツの使い分け、姿勢安定のための跳ね上げ式前方手すりや人感センサーを設置する等の工夫もあり、状態に合わせた自立支援を行っている。また排便確認のため、職員間で統一認識できるよう排便スケールを取り入れている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給できるよう努めている。慢性的な便秘がある方に対しては医師と相談し緩下剤の投与および散歩や運動を行うようにしている。		

自己	外部	項 目 (海)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回入浴ができるよう努めている。午後入浴するようにしているが、拒否のある方やなどは、入浴時間や職員を変えて対応している。	隔日の午前又は午後浴で利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの湯温や時間等で柔軟に対応している。入浴は介助スペースも配慮した半埋め込み式の檜風呂だが、利用者の負担を考えシャワー浴や足浴等で対応することもある。入浴が貴重なコミュニケーションの場ともなっている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に合わせた支援を行っている。気候にあった寝具の選定や室内の温度調整を行い安眠できる環境づくりに努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬とともにいただく薬事表は見やすい場所にファイリングし、確認しやすいようにしている。またわからないことがあれば主治医および看護師へ相談し確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあるもの、楽しみを見つけながら一人ひとりの力が発揮できる場が提供できるよう支援している。(生け花、料理、ハーモニカなど)	利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。料理等の家事・朝の活動から昼の活動・夕食後の休息の流れの中で役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事としての外出はドライブに限定されるようになったが、ご近所への散歩の行き来で庭に咲く花々を見て季節を感じていただいている。	コロナ禍の緩和に応じ、利用者の希望により少人数で近隣散歩・初詣・受診等の外出をしている。近隣の紅葉狩りドライブの途中で自宅巡り等、普段は行けないような所で「非日常」を楽しむこともある。又、玄関先のベンチでプランターに咲く季節の花を見ながら外気浴を楽しめるようにしている。	

自己	外部	項 目 (海)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不安のある方は少額を手元に置き自己管理していただいている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや季節のお便りなど関係がご家族との関係が途切れないよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電灯や遮光カーテンで室内の明るさを調整し、換気やエアコンで室内の温度を調整し快適に過ごせるよう調整している。	家族から差し入れの鉢植えや季節行事の飾り付け等で季節の移ろいを感じられる様配慮している。リビングは開放的な空間だが、西日に対し遮光カーテン設置等の工夫もしている。家族面会もできる玄関先のベンチの他、焼肉もできるウッドデッキは両ユニットの交流空間ともなっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合ったご利用者同士で過ごせるよう席に気を配り、廊下には椅子を設置し自由に過ごせるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を配置し、ご家族の写真を飾るなどご自分だけの空間であることがわかり居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室にはベッド・洗面台・タンス等が設置され、家具・テレビ等、使い慣れた物や位牌等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫をしている。ベッドに赤外線離床センサーを設置して転倒防止を図ったり、ベッドから居室扉までの導線確保のため住環境を整える等の工夫もある。	

自己	外部	項 目（ 海 ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全を心掛け、各居室、トイレの場所など分かりやすく表示している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのままで変更しないでください】

自己	外部	項 目 (空)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の会議や委員会によるアンケート勉強会を実施し、目標に向かい実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のためボランティアの受け入れなど交流は控えているが、散歩での挨拶や回覧を回す、地域清掃の参加は行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染防止のため交流は控えている。 運営推進会議を通して現状報告を行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行い改善に向け努力しているが、全職員が十分に評価を活用しているとは言えない。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見をサービス向上に生かすよう努力している。		

自己	外部	項 目 (空)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、電話やメールおよび書類提出時に窓口で相談するようにしている。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会をとおして勉強会を行い身体拘束とにならないよう勉強会を行い理解するよう努めている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることがないように、研修への参加および勉強会を実施し防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援できるよう努力している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を丁寧に説明し理解を得るよう努めている。疑問等あればその都度説明を行うようにしている。		

自己	外部	項 目 (空)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	迅速に対応し、運営に反映できるよう努めて いる。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課による面談等行われている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備が行われるように なっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	施設内外の研修参加し易い環境となっている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	研修へ参加することで、同業者との交流の 機会があり意見交換できている。また、自己 研鑽へ向けた取り組みがある。		

自己	外部	項 目（ 空 ）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様と話し合い、不安や要望を傾聴しながら信頼関係作りに努めている。カンファレンスを実施しその方が安心して生活できるよう環境づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当を通してコミュニケーションを図り信頼関係を築くよう努め、意見や要望を聞くようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接をさせていただき、ご本人様およびご家族様の要望を確認し、ご本人様の不安が解消できるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできることできないことを見極め、一緒に行うようにしている。 職員や他ご利用者様との共同生活が楽しみであるものになるよう一緒に考えている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防のため一時面会をお断りしていた時期もあった。 情報を共有し協力関係を築くよう努力した。		

自己	外部	項 目 (空)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止のため、馴染みのある方との面会はできていないが、電話の取次ぎはおこなっている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルで共同して洗濯物をたたむ等関わり合える支援を行っている。また、レクリエーションやお茶の時間をとおしてコミュニケーションが図れる場面をつくるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は接点が無くなるためできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望を傾聴することで把握に努め、カンファレンス・ユニット会議で話し合いを実施している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や入居前に利用していたサービス担当者より情報収集に努め、把握するようにしている。		

自己	外部	項目（空）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での健康管理を行い、カンファレンス、日常の記録を活用し情報の共有に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで意見を出し合い課題・ケアについて検討・改善を行い、ご本人様の自立支援に向けたお手伝いができるよう努めている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践の結果、気づき等を記録するようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況にあったものがなければ手作りするなど、創意工夫をし安心して過ごせるよう努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により十分とは言えないが、活用できるものは使っていけるよう努めている。		

自己	外部	項 目 (空)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一度の往診や急変時など迅速に対応できるよう日頃から連携を図るよう努めている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換を行い、医師との窓口でもあるのでその都度対応できるよう努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	それぞれの医療機関に設置してある医療連携室や病棟看護師をとおして情報交換を行うよう努め、退院時の受け入れができる努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様が状況を受け入れ、お互いに共同してご本人様を見守れるよう、日頃からご家族様・ご本人様の要望を聞き、尊厳ある人生が全うできるようお手伝いしていきたい。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的の講習や内部研修、勉強会により対応等の指導を受けている。		

自己	外部	項 目 (空)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を通して対応できるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の個性を尊重し対応を心掛けている。不適切なケアとならないよう声の掛け方や対応について勉強会を行っている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを傾聴し希望をくみ取ることが出来るような声かけを工夫している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ禍により外出の支援が減ってしまったが、ひとり一人のペースに合わせた支援ができるよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じご本人様が望む衣類の選択等一緒に行っている。行事によっては化粧をさせていただくなど、その方の希望を聞きながら行っている。		

自己	外部	項 目 (空)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時には野菜の皮をむき、鍋をかき混ぜワイワイと楽しみながら一緒に食事を準備している。 食後の後片付けなどできる方にはお手伝いをお願いしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量を把握し状況に応じた対応を心掛けている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ職員が介助しながら口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し職員間で共有している。 定期的なトイレ誘導と、言葉にできない方についてはご本人様が示す排泄のサインを見逃さないようにし、トイレへ誘導している。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給できるよう努めている。慢性的な便秘がある方に対しては医師と相談し緩下剤の投与および散歩や運動を行うようにしている。		

自己	外部	項 目 (空)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回入浴ができるよう努めている。午後入浴するようにしているが、拒否のある方やなどは、入浴時間や職員を変えて対応している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に合わせた支援を行っている。気候にあった寝具の選定や室内の温度調整を行い安眠できる環境づくりに努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬とともにいただく薬事表は見やすい場所にファイリングし、確認しやすいようにしている。またわからないことがあれば主治医および看護師へ相談し確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあるもの、楽しみを見つけながら一人ひとりの力が発揮できる場が提供できるよう支援している。(生け花、料理、ハーモニカなど)		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事としての外出はドライブに限定されるようになったが、ご近所への散歩の行き来で庭に咲く花々を見て季節を感じていただいている。		

自己	外部	項 目 (空)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不安のある方は少額を手元に置き自己管理していただいている。 外出が少ないため、使う機会を与えることができていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや季節のお便りなど関係がご家族との関係が途切れないよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電灯や遮光カーテンで室内の明るさを調整し、換気やエアコンで室内の温度を調整し快適に過ごせるよう調整している。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合ったご利用者同士で過ごせるよう席に気を配り、廊下には椅子を設置し自由に過ごせるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を配置し、ご家族の写真を飾るなどご自分だけの空間であることがわかり居心地よく過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項 目 (空)	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレの場所など分かりやすく表示している。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホーム湯田あいおい苑

作成日

2023年11月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全職員が自己評価の意義やねらい、活用方法が十分理解できていない。	評価の一連の過程を通じて、サービスの質の向上につながることの意義について、全職員が理解する。	月一度の職員会議を通して、管理者が評価項目を説明。	2年
2	16	自然災害に対する自施設での訓練は行っているが、突然の災害に対応できるか不安がある。	有事に対して、職員が共同して実践できるようにする。	他施設と合同で避難訓練を行う。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。